

レクリエーションを通しての地域福祉教育のあり方

曾 和 光 代

I はじめに

子どもを産みやすく、育てやすいような環境づくりに国をあげて取り組もうと、平成15年9月に「次世代育成支援対策推進法」が施行され、国や地方自治体、民間企業が一体となった対策が考えられている。市区町村では「次世代育成支援行動計画」を策定し、平成17年4月から様々な施策を実施することになっている。子育て支援・母子共の健康の確保増進・子どもの心身の健やかな成長に資する教育環境等であり、子どもが育っていく環境づくりは、人的面と物質面において支援活動を具体化させたいものである。

神戸親和女子大学（以下 本学という）は、具体化された子育て支援の開放講座や相談コーナーをいくつか設けている。地域の子どもと大人（本学学生や保護者、指導者等）がふれあい、地域と密着して活動が続けていくうちに本学講座の受講者（利用者）さんから学ぶ事が多くあり、それが学生の勉学への意欲にもつながっている。この事は福祉教育を広く考えると、ごく自然な人間同士のふれあい・ぶつかりあい・こうした出会い、ふれあいが互いの立場を知り、楽しみ、感動・歓び・苦しみを分かち合えて学び、学習の時、学習の場になり、活動・遊びを共有する時に思いやり・認め合う心が表れてくる。

何か手をさしのべること、そっと応援すること等いろいろとあるだろう。最小限必要な支援の仕方を学び、知っていくことになる。時には、手を差し伸べないでじっと相手のリズム・立場に合わせて、認め合って行動・活動することも身につけていくものである。活動プログラムを展開する時には、人と人との出会いが一人一人の学び・学習

の場になっているという視点が必要である。あえて福祉教育の視点として挙げたい。

担当の講座は、レクリエーション活動が主であり、人付き合いはレクリエーション活動の大きなテーマである。人と出会い、付き合う、この時には①活動そのものを目的として、その過程で付き合いが発生するものと、②その人あるいは、その仲間とのコミュニケーション・ふれあいが目的で何らかの活動をする場合とがある。この両者をはっきりと分けることは難しい。

近所の人・サークル仲間・子ども同士の関係から生まれた仲間、いろいろな仲間との雑談のひとつ（昔は、井戸端会議）も楽しいレクリエーション活動のひとつになっている。人間は、人との付き合い、ふれあいを生活そのものとして無意識に行っているといっても決して過言ではないだろう。本能的認知への欲求・自己顕示欲・集団や仲間への帰属の欲求等レクリエーションのひとつで大いに自己実現している。

受け持っている開放講座「親と子の運動遊び」では、レクリエーションを兼ねた運動遊びを通して本学と地域住民との相互作用があり、まさに福祉教育の一環であると考え、特に、本学学生が地域の受講者から得た学習効果に焦点を当てて考えてみる。

II 考察の過程

2005年春季より「親と子の運動遊び」の中で、学生が親と子の関わりでの支援・援助で共感した事等を毎回レポートしてもらった。この中から多くの学生と親子の間にお互いに学習しあった点、交流から得られたものが記載されていた。学生に

対する幼児理解を目的に始めた講座であったが、それ以上に学生対母親との相互関係により教師対学生という教育形態以上の生きた学習効果が得られている。これこそ地域から得た交流の結果、これからの大学教育が地域に根ざして進むべき道なのではないかと考える。

春学期学生から得た資料により、学生対母親に焦点を当てて学生にアンケートを実施した。

母親からの『言葉かけ』と学生との関係を考察していく。

1 対象者

－幼児体育Ⅳ受講学生にアンケート実施

2 期間及び対象講座－

学 期 4月26日（金）～7月8日（金）10回

秋学期10月7日（金）～12月16日（金）10回

の「親と子の運動遊び」地域開放講座

3 方法・内容－質問紙法（アンケート用紙）

「親と子の運動遊び」の資料より作成

幼児体育受講にかんしてのアンケート

質問 1 運動遊びで、親と子の関わりについて、特にあなたの心に残った事や影響を及ぼした事は何ですか。

質問 2 運動遊びで、お母さんからいただいた言葉、または、影響を受けたものは何ですか。

4 アンケート実施日－2005年12月16日（金）

対象者数－「幼児体育Ⅳ」受講生

当日出席者78名

5 アンケート整理と集計

質問項目	総数	78	12月16日(金) 幼児体育Ⅳ 出席者数
質問 1 親と子の関わりについて	有効数	74	見守る、安心感、挑戦、意欲、一体感
	無効数	4	親子の関わりでなく、学生と子どもとの事について書かれていたので無効
質問 2 母親から影響をうけたもの	有効数	63	感謝、励ましの言葉、ほめてもらう
	無効数	15	母親からの影響ではなく、子どもと学生の関わりを書いていたので無効(3) 白紙(10)、特になし(2)

Ⅲ 考察の結果

アンケートの質問を順に追ってみていくと。

質問 1 運動遊びで、親と子の関わりについて、特にあなたの心に残った事は何ですか。

この問いに対しては、母と子の関わりについて観察し関わってきた事から感じた事を記述式で述べてもらった。春学期幼児体育Ⅲと秋学期幼児体育Ⅳで「親と子の運動遊び」を通して、学生それぞれの文章で書かれていた。春学期では、学生と子どもとの関わりで、子ども達がどのように運動遊び活動をしたかを通して幼児理解へとつなげていった。春学期の初めには、学生と活動を共にしていても、子どもが活動途中で、気まずい事・喧嘩する・仲間に入れない・上手にできない・やりたくない等のトラブルが生じると、子どもは学生に相談することなくすぐに母親の許へ走っていく。一緒に活動していた学生自身も気まずくなり、自分の対応の仕方が悪いのではないかと、少し遠慮気味であった。

また、母親が一緒になければ、子どもは絶対に自分を頼ってくれるという自信のある意見。対応が幼児向きではないかと反省し、もっと子どもとの接し方を考える向上的な意見もあった。それには、母親からもっと子どもに関しての情報がほしい。おかあさんと話をしたい・交流をもちたい等の意見やレポート内容があった。このことから、まず幼児理解は母親との交流からではないかと考えた。質問1は、母と子の関係について学生自身活動を共にして思った事・感じた事を問い、母親と子どもとの関係に学生自身が影響を及ぼした事と質問している。しかし、“及ぼす”そのものが、悪い事と捉えがちなので、むしろ影響を受けた事・考えさせられた事を説明しながら記述してもらった。

学生一人一人の言葉の表現は異なるが、子どもにとって良きにつけ、悪しきにつけ母親の存在の大きさに感心する学生が無効数4件を除いて全員であった。

整理してみると

1 子どもの行動・活動を見守り、共感している
と感じられる母と子 (39件)

- ① 常に子どもの事を考えて、あたたかい目で
子どもの行動・活動を見守っている。
- ② 子どもが楽しそうだと母親も安心している。
- ③ 母子共に一緒に遊んでいる子どもは安心して
遊んでおり、子どもの積極性を促してい
た。
- ④ 母親は子どもの心のよりどころであり、母
親も子どものすべてを受け止めている。母
には勝てない。
- ⑤ 心のよりどころ・安心感を母親のまなざし
からもらっている。
- ⑥ 子どもに対する言葉かけのうまさ・母親の
影響は大きい。その言葉で子どもは思いっ
きり遊んで、勇気をだして挑戦している。

以上記述の表現の仕方は異なるが、母親の見守
りで子どもの活動のありを感じているのが39件あ
った。



写真1 お母さんみて魚をつるよ！

2 子どもにとって母親の存在を感じる母と子
(57件)

- ① 母親の存在のすごさを実感する。母親がい
ないと子どもはパニックを起こす。(必死
になって、母親を探す)
- ② 母親の許に戻って遊び疲れたり、あいたり
すると充電している。
- ③ 母親を基地として活動している。
- ④ 第3者が声かけしても母親の側だと安心の
笑顔を見せてくれるので、母親は原点だと

感じている。

- ⑤ 子どもは常に、母親がどこにいるか確認し
ながらあそんでいる。
- ⑥ 何かうれしい事・楽しい事・困った事等を
母親の許にもどって常に報告している。母
親が一番好きなのがよくわかる。
- ⑦ 母親との信頼関係があるので、何でも相談
している。

以上、学生は、子どもにとって母親の存在の大
きさを感じており母子関係の正常なあり方を実感
したのではないか。

3 その他

- ① 子どもの接し方がそれぞれの母と子によっ
て異なると感じた。(1件)
- ② 親同士が交流をもっている親子は子ども同
士でも交流をもっていた。(1)
- ③ 母親が固い感じや他の母親と接していない
子どもは、不安そうでなかなか母親から離
れられない。(4件)

以上であったが、数はすくないが、母親自身が
不安な面を持っている場合は、他の母親との交流
がもちにくいのであろうと考えられるが、母子関
係が悪いわけではない。

無効回答については、学生が子どもと接して感
じた事・学生対子どもの関係について記していた
もので、今回の質問は母と子の関わりについて問
うているので無効とした。



写真2 クリスマスツリーがきれいにできあがったよ！

まとめ

母親は、子どもの活動を初めは一緒に支援しな

がら共に歩んでいるが、そのうち、子どもが一人で遊びだすと見守る支援にはいつている。子どもが遊んでいると、いつもうまくいくとはかぎらず、つまずいたり、遊具がうまく使えなかったり、また、友だちとのトラブルや自分の思い通りにいかない事がある。そんな時、母親の許に戻り、自分の心の調整をして、また、母親に励まされて次の遊びへと挑戦していく。母親が見守ってさえいてくれば、友だちとも一緒に遊べる。いざとなれば、母親がいると安心している。そんな母と子の親子の信頼関係・絆に大きな感動を学生に与えている。

幼児教育では、家庭・家族、特に、母親の存在は幼児の発育・発達に大きな影響を与えると考える。子どもの育つ環境への理解、子どもが一番信頼している母親に対する理解は大きい。子どもだけに聞ければ済むというものではない。

学生は、母と子の関わりについてよりよき関係を保てるようにサポートできる指導者・支援者になるための学習者である。この講座でそれを感じとっているのではと確信する。

質問 2 運動遊びで、お母さんからあなたがいただいた言葉、または、影響は何ですか。

この質問は、母親からの影響を受けた事柄を問うた。これも記述式なので回答は複数となる。

整理してみると

1 講座受講の親子の母親から学生自身に、将来の事や勉学に関して思いやる言葉がけをもらった事柄（8件）

- ① 「教育実習大変なの・どこへ行くの」等実習に対して頑張るように励ましの言葉をももらった。
- ② 「一生懸命頑張って勉強して、先生になってください。」と、将来に対して励ましの言葉をももらった。
- ③ 「昔、学生時代を思い出すわ」と、母親自身の思いから勉強や実習を頑張るよう励ましの言葉をももらった。

学生は、本学の教員側が励ますより効果が大き

く、「ちゃんと勉強しないといけないなあ」、「絶対、先生になりたい」等、考えだした。

2 学生がグループワークでその日のプログラムを担当した内容について、グループに励ましの言葉をももらった事柄（26件）

- ① 風邪をひいて体調が悪くても、毎回のプログラム内容を楽しみに参加したい。子どもは、楽しみにしている。
- ② いつも楽しい遊びがあるので「早く行こう」と、子どもも楽しみにしている。
- ③ 「今日も楽しかったです」、「ありがとう」と、感謝された。
- ④ 「楽しかったです。お疲れさま」と、労ってもらった。
- ⑤ 「手遊びをもう一度教えてください」等、やった内容のアンコールをしてもらった。
- ⑥ 「家へ帰っても、ゲームや遊びをやるんですよ」等、家で楽しんでもらっているのだうれしく思った。
- ⑦ 「皆さん（学生達）楽しそうですね」、「元気ですね」、「皆さん二回生なのにしっかりしているのね」と言われて、頑張ろうと思った。
- ⑧ 「楽しそうな事をしているね!」、「お父さんにもって帰ってあげよう。よろこぶよ!」、「お手紙もらえていいね!お父さんうらやましがるよ!」と、作ったものを持ち帰ってくれ家庭でも喜んでくれるのだと感じた時は、教材を工夫してよかったと思った。

グループで教材づくりをし、ゲーム遊び・サーキット遊び・ごっこ遊び・エプロンシアター・絵本読み・手遊び等分担を決めて、その日のプログラムをグループワークしていくのが、母親からの一言でやりがいがあったと学生達は思い、教材づくりへの意欲にもつながった。

3 子どもの対応に対して個人（学生自身）に母親から言葉がけをうけた事柄（36件）

- ① 子どもが学生と関わった事が楽しかったらしく、母親に帰宅してから話していると聞いてうれしかった。



写真3 お母さんに励まされてお姉さんの紙しばいが始まるよ！

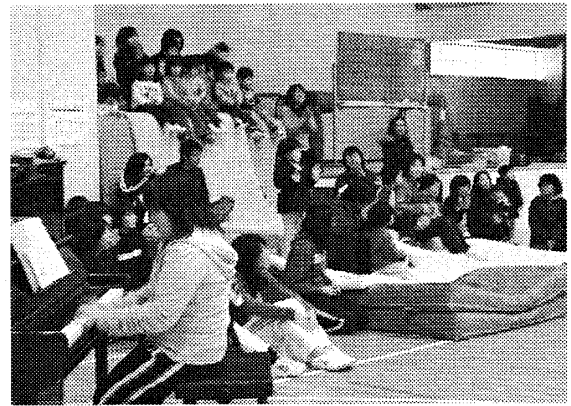


写真4 お姉さんピアノ頑張ってください！

- ② 子どもが、母親に「お姉ちゃん（学生）は、どうして手をつないだり、だっこしてくれないの」と、言っており、その話を母親から聞いて、甘えてくれているのがうれしかった。
- ③ 母親から「人見知りする子なのに、あなたになついてくれて、接し方が上手ね！」と、言われた時、自信がついた。
- ④ 母親から「子どもが同じ人と同じ遊びを楽しんでいるのが、初めてわかった。」と、子どもに気に入られている事を代弁してくださったのがうれしかった。
- ⑤ 母親から「幼稚園の先生の雰囲気似ているので、人見知りせずお姉さん（学生）の所へ行くのをいやがらないのです。」と、言われた時は、うれしかった。
- ⑥ 「お姉さん（学生）と遊ぶのを毎週のように楽しみにしています。遊んでくださって、ありがとう」と、言われうれしかった。
- ⑦ 「家へ帰っても、私の名前を言ってくれている」、「家でお父さんやお兄ちゃんに、私の事を話している。」等、家族の中でも話題にのっているのがうれしい。
- ⑧ 休んだ日に「今日は、いない」、「今日は、来ないの」と探したり、「実習でいなくて、悲しいね」等、さみしそうに母親と話すそうだと聞いた事、いとおしく、うれしかった。
- ⑨ 母親が「ほら、お姉さんと手をつないでお

- いで」と、子どもの手をさしだしてくださった時は、まかされたといううれしさがある。
- ⑩ 子どもが戸惑っている時、母親が「お姉さんの所へ行っておいで」と、一言いってもらえるのは、うれしい。
- ⑪ 帰りぎわ、母と子がなかなか帰らなくて別れをおしんで話をいつまでもしてくれと、お母さんと子どもに好かれているのだと思って、うれしい。
- ⑫ 私があげた誕生日プレゼントをずっと持っているんですと、母親から聞いた時、うれしかった。
- ⑬ 「来週、又きます」、「来週も遊んでやってください」と、言われた時は、休まずに来ようと思う。

等であったが、教師が母親と関わる以上に、学生は母親から子どもの情報をもらっており、それが学生の励みになっている。

4 その他（2件）

- ① 子どもの事をいろいろと話してくれて、一緒に遊んでいると、我々（学生達）も見守ってくれるのが、うれしい。
- ② 妊産婦の母親のお腹をさわらせていただいた時、あたたかく、しっかりとした力強いお腹に感動し、自分もぜひ産みたいと思った。

以上、2件しかないが、母親を先輩として、女性として一目置いているのがわかる。

まとめ

学生に対する母親の言葉がけや励ましの言葉は、学生に自信や意欲につながっているという結果が出ていると、考えられる。

学生自身に対して、将来に関して思いやる言葉、実習・勉強にたいする励ます言葉は、頑張っって幼稚園の先生になろう・保育士になりたい等、幼児に関わる職につきたい意欲につながっている。自分の将来の夢を実現させたいと願っている。また、当番で自分達のグループでプログラムを組んだ日に内容について母親から励ましていただいた学生達は、グループワークが実り、子どもたちにもこんなに楽しんでもらえたという満足感が自信つながり、教材の工夫の大切さもわかり、責任を感じたと述べている。

学生個人は、子どもと関わった対応に対し母親からほめられたり、励ましてもらったり、お礼をいわれたりした学生は、自分も休まずに授業をうけよう。子どもたちに会うのは楽しみであると記しており、子どもと一緒に遊んでいる時は、我々にも見守ってくれていると感じている。妊娠婦の母親との関わりは、先輩の女性としての尊敬や自分自身の進むべき道へと希望をもってくれるのは、女性同士ではほえましい光景でもあり、素晴らしい力を頂いたと考えられる。

母親からの励ましは、教員側の指導者としての威厳性をもった励まし方と違い、異なる講座を融合して運動遊びを共に楽しむ受講者としての友愛性のある励まし方である事に気づいた。母親は、学生の組んだプログラムの展開場面においても未

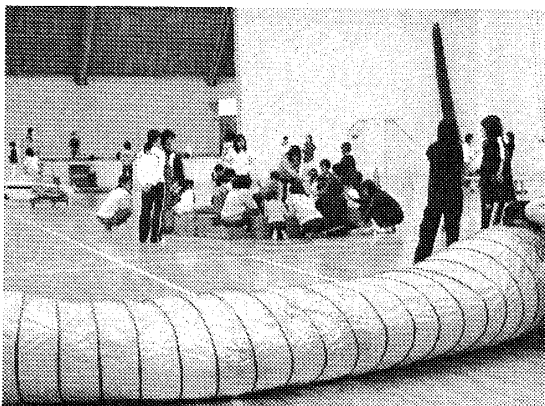


写真5 お母さんとお姉さんも見守ってくれているよ！

経験者への励ましの言葉をかけてくださった。これは、質の異なる指導者であると考ええる。

子ども対学生の関係ばかりに気を留めていたが、この講座では、地域の母親とコミュニケーションをとることによって学生が母親から受けた数々の事柄が、学生の勉学への意欲と将来の夢を現実化する力となる学習成果と考えられる。

さらに、専門的な学習を積んでよりよい幼児支援者になってほしい。

IV おわりに

子ども達の輝いた笑顔を見られる瞬間は、母親として至福の時かもしれない。「あれができない」、「こうしなさい」と、子どものマイナス面を責めたり、規制するよりも、子ども達が満面に笑顔をたたえ楽しむような事を体験・共有すること、それが子ども達を豊かに育み、暖かで互いに慈しみあえる家族をつくっていくことにつながると考える。時間に追われ、子ども達を喜ばすためにともすれば、おもちゃやアニメビデオをテレビ・コンピューターなどで見せ、できあいのお金で買える楽しみや遊びを買い与えてよしとしがちであるが、この講座では、子どもと親が一緒になって取り組む事を基本としている。「おかあさん、すごい」、「お姉さん、すごい」と、一緒に活動して子ども達が感動する事は、次は自分も一人でやってみたいと挑戦する意欲につながる。

育児から解放され、気持ちもリフレッシュするという親と子どもを分けたプログラムも考えられるが、その場は育児から解放されるが、日常生活に戻ればいつも側に子どもがいる。せっかくのリフレッシュもあまり意味がない。むしろ、母親と共に活動していることにより活動場所である大学と家庭と連動させる仕組みになっており、実際のプログラム活動内容を家に持ち帰って父親に話したり、その父親の反応を学生に紹介したり、プログラムの素材やネタをきっかけとして、父親の育児参加も促す仕掛けも盛り込まれていた事に学生と母親のコミュニケーションの結果から記述されている。この事に気付かされ大いに感動した。こ

の講座が日常生活につながっている事は、有り難い事である。

今回は、特に母親から受けた励ましの言葉がけが学生の学習意欲につながっている事は、さらに有り難い事である。これは、教師側からの励まし以上の成果があると考え。今後も学生も含め子ども達が多くの人々と楽しみながら交流をし、学びを深める様々な取り組みをし、地域の子どもは地域が育てる気持ちで、経験豊かな保護者の意見も聞きながら、住民の皆さんが指導者であり先生という考えを持ち、地域全体が学校・学習の場であるという考えで取り組んでいきたい。これこそ地域福祉教育ではないかと考える。

参考文献

- 1) 雑誌 月刊誌「Rec. レクリエーション」

No.553 2005年3月
 “ No.554 2005年4月
 “ No.555 2005年5月

“ No.556 2005年6月
 “ No.557 2005年7月
 “ No.557 2005年8月
 “ No.561 2005年11月

発行所 日本レクリエーション協会

- 2) 「福祉にかかわるすべての人々に－

「新・福祉カウンセリング」

藤田 雅子 編集 日本文化科学社

2003年4月20日 第2刷発行

- 3) 「コーディネーターがひらく地域福祉」

福岡 寿 編集 ぶどう社

2002年8月20日 2刷発行

- 4) 「福祉の地域づくりをはじめよう」

福祉の地域づくり研究会 編集

国土交通省総合政策局事業総括調整官室 監修
 ぎょうせい 2002年1月30日 発行

- 5) 「レクリエーションワーク入門」

－プログラムの視点と実際－

佐野 豪 著者 不昧堂 出版

1997年10月26日 五版発行